

平成22年度 史跡と浪漫を探訪する

増田宋太郎の足跡を辿る



平成22年11月7日(日) 13:00~15:30

増田 宋太郎 (ますだ そうたろう、嘉永2年2月23日(1849年3月17日) - 明治10年(1877年)9月)は、中津藩下士増田久行の嫡男。母は九州国学の三大家の一人、渡辺重名の娘。父は儒学者・福沢百助の妻のいとこ。福沢諭吉とは再従兄弟にあたり、家も近くである。幼名は久米丸。「共憂社」主、西南戦争における中津隊々長。



主催：NPO中津まちなみ会・社) 大分県建築士会中津支部
共催：中津市まちづくり推進室

増田宋太郎ゆかりの地を探訪

①西南の役中津隊之碑

大正十四年建立。題字は旧中津藩主奥平昌恭の揮毫。背面に水島鏡也（神戸高商初代校長）撰並び書の顕彰文が漢文で書かれている。

①増田宋太郎歌碑

西南の役中津隊長百周年祭記念として昭和五十二年に建立された。

①松の御殿跡

江戸時代後期、帰郷する江戸在住の諸姫君が住むために造られた御殿。後に大分県中津支庁として使われていたが、明治十年、宋太郎が中津隊を組織し西南の役に参戦する際、襲撃し灰燼に帰した。

②中津藩皇学校跡（三の丁）

明治二年、閉館した道生館のあとに宋太郎が中津藩皇学校を創立し、勤皇思想を教えた。

③明蓮寺（桜町）

明治十一年、田舎新聞の創刊一周年記念式典（実は増田編集長の追悼会）が行われた場所。

④道生館跡（桜町）

渡辺重石丸が開いた国学（皇学）塾。宋太郎はここに九歳の時から学び「道生館の神童」と呼ばれた。

⑤松野屋（豊後町）

中津隊副隊長格、豊後庄内の後藤純平が居候していた料亭。中津隊決起の時、結集して出発した家と言われている。

⑥福沢旧居（留守居町）

明治三年、福沢諭吉が帰省した時、宋太郎はこれを暗殺せんと隠れ待っていたお縁が、そのまま残っている。

⑦増田宋太郎生誕地跡（弓町）

父は久行、母は刃自（渡辺重名の娘）の長男として嘉永二年（1849）この地に生まれる。幼名久米丸。

⑧安全寺（下正路）

宋太郎・鹿の墓がある。また弟岡本真坂や同志川村矯一郎の墓もある。

⑨闇無浜神社（竜王町）

かつて宋太郎は、この神社の祠官をつとめていた。
